

ファッションの情動性が人間の心理生理に与える影響
Effect of the Emotion Arising from Fashion on Psychological and Physiological Responses of
the Human Body

小柴 朋子*¹⁺, 田村 照子*¹⁺, 永井 伸夫*¹⁺, 森 由紀*²⁺, 綿貫 茂喜*³⁺
Tomoko Koshiba*¹⁺, Teruko Tamura*¹⁺, Nobuo Nagai*¹⁺, Yuki Mori*²⁺ and Shigeki Watanuki*³⁺

*1 文化女子大学服装学部、東京都渋谷区代々木 3-22-1

Faculty of Clothing Science, Bunka Women's University,
3-22-1 Yoyogi Shibuya-ku, Tokyo, Japan

*2 甲南女子大学人間科学部

Faculty of Human Science, Kohnan Women's University, Japan

*3 九州大学芸術工学研究院

Faculty of design, Kyushu University, Japan

+服飾文化共同研究拠点、文化ファッション研究機構、文化女子大学

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture

Bunka Fashion Research Institute, Bunka Women's University

Abstract : The purpose of this study is to clarify the physiological effect by consciousness of fashion. We review about psychological researches about fashion in journal and bulletin on past 30 years. Furthermore the lecture by authority was held.

はじめに

人は、衣服を纏う時、あるいは衣服を眺めた時などに、強い印象を得たり、心から湧き上がるような高揚感が生ずる場合がある。本研究では、いかなる服装が人の心を捉え、その時、人の体にはどんな生理的变化が生じているのかについて明らかにすることを目的として、実測を交えた分析を行う。本年度は、昨年度計画した研究進行に基づき、ファッションが人体に及ぼす影響としての心理的効果と生理的反応に着目した従来の研究について総ざらえし、最終年度での調査および実験の準備を行うこととした。

方法

ファッションに対する人の意識について心理学的手法を用いた調査研究を対象に、過去 30 年間の学会誌・紀要・企業報告書から収集し、レビューする。その中から、ファッションによる快・ストレスについて、質問項目を抽出する。ファッションに関する心理学的、生理学的研究分野の第一人者から、従来行われてきた研究のレビューを内容とした講演会を公開する。

ファッション意識についての質問項目を従来の文献から抽出し、心理的尺度を考慮した、ファッションによる快・ストレスについてのアンケートを作成する。

*1) koshiba@bunka.ac.jp

結果と考察

1. ファッションに関する心理学的・生理学的研究手法と研究課題の例

- ① POMS, VAS, QOL, VAS, SF-36. 装い行動が高齢者の心身の健康状態の向上に寄与するか、ファッションがトリガーになるか。
- ② 健康心理学領域で用いられている理論: ストレスのメカニズムとストレスコーピング, カウンセリングによる効果の段階変化, 情動を象徴するキーワードなど。
- ③ 衣服による圧迫がホルモンに及ぼす影響, 衣服の色, 配色, 模様が生理・心理におよぼす影響。衣服によるストレスと各種ストレスマーカー(アドレナリン, コルチゾールなど)の挙動。
- ④ 各種刺激による生理学マーカーへの影響: 脳波, 自律神経, 尿中および唾液中ホルモンや免疫物質におよぼす, 衣服の色やの影響。

2. 求められる研究内容

- ① 対象者: ストレスfulな生活環境をもつ対象者がファッションにどのような意識を持つか: 子供を持つ母親, 高齢者, 大学生, 看護師, 介護士など。
- ② 研究内容: 質問紙調査(心理学領域): ストレスとファッションの関係についての調査。ファッションへの興味, 自尊感情との関係についての調査。
 - ・ 生理学的指標: 自律神経, 唾液中ストレスマーカー: コルチゾール, s-IgA, アミラーゼなど。

3. 心理学的アプローチ

- ・ 女子学生の服装行動が自尊感情に与える影響: 自尊感情の多面的階層モデルについて・・・自尊感情は身体的ないくつかの要因により形成される。服装と自尊感情(well-being)の関連性。何が自尊感情(self-esteem)を変化させるか・・・介在する black box の解明。
- ・ 女子大学生の購買スタイルと衣服の選択行動, 情報源について。女子学生のファッション意識・行動に関する文献(ファッション環境, ファッションビジネス学会誌, 繊維機械学会誌, 日本家政学会誌など)。

4. ファッション行動と意識の変遷について, 1980年から現在に至るまで約30年間の文献の review。140件を行った。分析項目は論文名、著者、雑誌名、巻・号・頁、発行年、対象、性別、年齢、対象者、調査方法、研究目的、調査項目、主な結果。140件中、調査方法、研究目的、調査項目、主な結果の分析は70件、発行年内訳を図1に示す。

内訳は女性のみ対象 43 件、男女対象 37 件。
 高齢者対象 10 件、短大生大学生対象 27 件。
 そのうちの調査項目の例を次に示す。

- ・意識しているファッションイメージ
- ・考えと行動様式・関心度と実践度
- ・購買行動・商店街イメージと買い物の仕方
- ・性格特性・流行、広告、ブランドなど
- ・生活信条、生活意識、衣生活意識、着用行動や衣服購買行動
- ・被服の選択、購入、着装、おしゃれ意識
- ・下着に対する恥ずかしさ、日頃の意識、捨てることへの躊躇、お気に入りの下着の心理的効果
- ・ファッションに対する意識・露出に対する意識
- ・ファッション意識の合成、類型化、トレンドへの関心と評価 など

以上 140 件の文献から、心理評価における質問項目の抽出を行う。

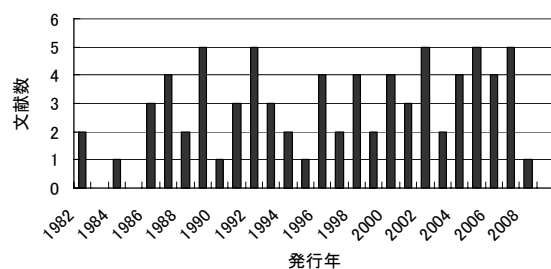


図1 調査した文献年度

5. 心理生理指標に関する研究話題

「日本人の美意識に関する研究 ～衣服のくずれ方が生理学的指標および心理学的指標に及ぼす影響～」(綿貫先生の研究より)

- ・ 着物を着た女性が徐々に肩を露出すると、それを見た男性の副交感神経系指標は、ある時点まで上昇し、後に下降する。主観とは異なる生理学的動態。同姓の肌の露出を目視した場合の、反応には性差がある。
- ・ ファッションと自尊感情の関係、自尊心の高い人はファッションへの興味も強いという考え方と、自尊心の低い人が自己の意識を高めるためにファッションへの欲求を高める、という考え方がある。

6. 講演会

① 九州大学大学院芸術工学研究院 綿貫茂喜教授「情動と生理反応」

第6回 研究会 (平成21年11月3日(金) 14:00～16:00、文化ファッション研究機構、会議室)

講演内容

ストレス応答と自律神経系の活動

ストレス応答とは、外界からの刺激によって生体のバランスが崩れた際に、これを立て直すための生体の反応である。様々なストレス反応の基盤になるのは、自律神経系である「視床下部－交感神経－副腎髄質系(SAM系)」、「内分泌系である「視床下部－下垂体前葉－副腎皮質系(HPA系)」、並びに免疫系の反応と考えられている。SAM系が賦活化されると血液中にカテコールアミンが放出され、血圧の上昇、発汗、などの反応が起こり、ストレスに対抗する。また、HPA系が賦活化されると血液中にコルチゾールが分泌され、このことにより免疫系が抑制される。生体に及ぼす刺激としては視覚、聴覚、嗅覚、触覚、味覚などがあるが、これらの刺激が脳の視床下部に入力され、HPA系、SAM系の反応系により、脳波、心拍変動、血圧変動、内分泌系、免疫系の反応が起こる。生体反応を解析する場合、自律神経系の指標だけでは生体の反応は判らず、複数系の同時計測が望ましいと考えられる。

ホルモンと循環器系の反応も複雑であり、アドレナリンの反応様式も、受容体 α 、 β のどちらに結合するかによって様々な反応を起こす。気管支における β_2 への結合で気管支の拡張、心臓の α_1 への結合でHRの増加、皮膚血管 α_1 で血管収縮、筋血管 β_1 で血管拡張などの反応が起こる。心拍変動性(heart rate variability: HRV)とは、心電図のR-R間隔を周波数解析し自律神経に関する周波数間積分値を得ることであるが、寒冷暴露や騒音の刺激で、 α 受容体の反応が亢進し、 β が下がる。暑熱暴露で、 α が下がり、 β が上がると考えられている。

心拍変動性の解析には、スペクトル解析として線形モデル(FFT, AR, MEM)や、非線形モデル(WAVELET, KAOS)があり、非スペクトル解析(VHP, Variation Heart Period)やCV(変動係数:標準偏差/平均値)、ローレンツプロットなどがある。VHPは $\Sigma(R-R_{max} - R-R_{min})/X$ で算定され、副交感神経との相関があると考えられている。

ヒトはストレスを受けると血圧が上昇するが、ポジティブな運動などでは心拍数の増加、心収縮力増強がおこり心拍出量が増加し血圧が上昇するが、ネガティブ刺激に対しては細動脈収縮が起こり末梢血管抵抗が増加し、血圧上昇が起こる。これらの反応の判別法として、インピーダンス法による心拍出量の算出法がある。自然動画による自律神経系の反応をみても、全末梢血管抵抗(TPR)の増大による場合と、心拍出量(CO)の増大による場合が考えられる。TPRは α 交感神経活動の亢進、寒冷環境、否定的な情

動, 恐怖による反応により増大し, COは β 交感神経活動の亢進, 温熱環境, 運動, 怒りによる反応により増大すると考えられている。[1][2]

②放送大学 藤原康晴名誉教授「心が変わると外見も変わる 外見が変わると心も変わる」

第7回 研究会(平成22年 2月13日(土) 13:30~16:00) 公開講演会とした。参加者9名。

講演内容

1.服装を通じた印象形成

- ・対象人物の服飾に対する認知は, 未知な対人関係から, 対象への興味・関心の励起から始まり, 服飾の評価(状況, 社会的属性, パーソナリティー)の認知が行われる。
- ・「似合う」評価方法の構築: 体型の細身の人は地味な服装が似合い, ふくよかな人は調和のとれた服装が似合う。

2.自己概念と衣服の関連性

- ・現実的自己概念(現在)と理想的自己概念(未来): 現実的自己概念は、「やや暗い」評価で, 理想的自己概念は「かなり明るい」であり, そのギャップとして, 現実的自己概念から理想的自己概念へ向かわせるものは「好きな衣服」を着ること。現実と理想の間にあるものとして衣服がある。自己概念の因子の, 友好性・明朗性, 情緒性, 誠実性, 活動性・意欲性のうち, 服装の因子である, おしゃれ志向, 実用性・着心地, 保守性・慎み深さとの関連が見られたのは, 友好性・明朗性とおしゃれ志向, 活動性・意欲性とおしゃれ志向, 誠実性と実用性・着心地であった。

3.服装によって生起する多面的感情状態尺度の作成[3][4]

- ・衣服による感情変動を表す用語, 尺度の開発: 1 快活・爽快, 2 充実, 3 優越, 4 安らぎ, 5 抑鬱・動揺, 6 羞恥, 7 圧迫・緊張
- ・卒業パーティー, 通学, レジャーランド, 会社訪問の各場面で, 各服装をしたと想定して生起する感情を測定したところ, 羞恥心との関連性が認められた。

4.服装の測定, 服装評価の再現性

- ・服装評価の再現性について検討したところ, 「sophisticated-unsophisticated」のような概念的な尺度については相関が高いが, イメージ評価については再現性に乏しかった。
- ・服装評価のあいまいさを考慮し, ファジィ評定(評定に幅をもたせた回答)を行うことにより, ある程度は場を持たせ, また評価のピークを知ることができる。

文献

1. 綿貫茂喜:「生理反応による感性科学研究」, <http://host.id.design.kyushu-u.ac.jp/ninkou/watanuki>
2. 綿貫茂喜, キムヨンキュ, 李貞美:快・不快という情動が生じた時の背景脳波およびその他の生理反応の特徴. 臨床神経生理学, 33(1)21-26, (2005)
3. 藤原康晴, 多久慶子, 西藤栄子, 木村恵子, 林泰子, 宇野保子, 近藤信子, 家本修, 中川早苗:「服装に対する評価とその服装によって生起する多面的感情状態との関係;派手/地味あるいはフォーマル/カジュアルと評価される服装の場合」, 繊維機械学会誌, Vol.49, No.8, pp.197-204(1996)
4. 西原容以, 土井千鶴子, 黒田喜久枝, 山本昌子, 渡辺澄子, 川本栄子, 中川敦子, 藤原康晴, 家本修, 中川早苗:「服装に対する評価とその服装によって生起する多面的感情状態との関係:場面にふさわしい,あるいは着たい服装の場合」:繊維機械学会誌 繊維学会誌, Vol.49, No.8, pp.189-196(1996)